

経済ピックアップ

「まんが喫茶」 人気再燃

漫画本を図書館並みにそろえた「まんが喫茶(まんが喫茶)が、インターネット使い放題、シャワー設置などサービスをアップして、人気を取り戻している。漫画で育った二十代から四十代の男女を中心に、ひとときの癒やしの場になっているようだ。

「コミックバスター・エムドライブ西中島店」はJR新大阪駅近くに昨年一月、オープンした。漫画本は新旧合わせて約二万冊。木製の壁で間仕切りされた二十七の席にはインターネット用パソコンが置かれ、ふかふかのリクライニングシートが備えられている。

男性店員はスーツにネクタイを着用して高級感を演出。間接照明でやや暗めの店内には、ジャズが静かに流れている。漫画を読むだけでなく、無料で使えるパソコンでゲームにふける若者も多い。料金は最初の一時間が四百二十円で、コーヒーやジュースなどはお代わり自由。

「上質な安らぎの空間を提供したい」と佐藤誠店長。「昼休みに弁当を持ち込んでひと息入れる方や、仕事帰りに立ち寄って二、三時間のんびり過ごされる方が多い」

近所で一人暮らしの男性(四)は「自分の部屋より居心地がいい」と話す。学生の町である東京・高田馬場の「ルシエルシエ高田馬場店」は、一日二百人以上の利用者のほ

女性客も重視 おたくイメージ一掃

ぼ半数が女性だ。約二万五千冊の漫画本の約三割が少女コミックで、女性ファッション誌も数十種類が本棚に並ぶ。

畳一畳ほどの和風個室、二人掛けのソファを備えたカプセル向き、明るいカフェ風のコーナーと多彩に用意され、シャワー室まである。終電車を逃して夜明かする客もいるとか。

「喫茶店やレストランだと長居しづらい。まんが喫茶なら気持ちよく暇つぶしできます」と会社員の女性(三〇)。

業界団体「日本複合カフェ協会」(東京)によると、まんが喫茶は一九八〇年ごろ名古屋で誕生。バブル経済とともに全国に広まったが、「まんが喫茶イコールおたくの集まる場所」とのイメージが強まり一時衰退した。

九〇年代後半からレストラン並みの食事やネイルアートなど個性的なサービスを導入して再び急成長、昨年の一年間で約五百店も増え、計約三千店に達している。お客のニーズを取り込んで再生したまんが喫茶、さて次の一手は?



じゃれた雰囲気「まんが喫茶」で足を伸ばして
—東京都新宿区
くつろぐ女性